

Σαμάρεια

サマレリア

知っておきたいキリスト教のことば (82)

サマリア人 さまりあじん

サマリアはガリラヤとユダヤの間にあった町です。紀元前 870 年ごろは、北イスラエル王国の首都として栄えました。

しかし前 721 年の北イスラエル王国滅亡後、サマリアには異民族が多く侵入してきます。そしてサマリアに残っていたイスラエル人と婚姻関係を結び、サマリア人と呼ばれる民族が生まれました。

ユダヤ人は自分たちの血筋をととても大切にしており、異民族との婚姻は忌むべきものだと考えられていました。そのためにユダヤ人はサマリア人を蔑視します。

そのためユダヤ人がバビロン捕囚から帰還しエルサレム神殿を再建するときに、サマリア人はその協力を申し出ましたが、ユダヤ人の預言者エズラは拒否しました。ユダヤ人は、サマリア人を同胞として受け入れることはできなかったのです。

そしてサマリア人は、ユダヤ人とは違う形で礼拝をおこなっていきます。ゲリジム山に神殿を建て、サマリア五書を聖典とします。サマリア五書はモーセ五書(旧約聖書の創世記から申命記まで)とほぼ同じ内容ですが、律法の記念碑を建てる場所がエバル山ではなくゲリジム山になっていたり、犠牲をささげる場所がエルサレムではなくシケムになっていたりという違いがあります。

イエス様が公生涯を送られた時代も、ユダヤ人はサマリア人を忌み嫌っていました。ユダヤ人はガリラヤからエルサレムに向かうのに、遠回りにでもサマリアを通りませんでした。また「ユダヤ人はサマリア人とは交際しない(ヨハネ 4:9)」との記述もあります。

しかし福音書は、善きサマリア人のたとえを語り、サマリアの女性とも会話するイエス様の姿を描きます。イエス様は、人々の間にある壁を取り払われたのです。

次回は「山上の説教」です。楽しみに。



「キリストとサマリアの女」

フェルディナント・ゲオルク・ワルトミュラー
(1793~1865年)

サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。

(ヨハネによる福音書 4 章 7 節)

